



屋久島町
YAKUSHIMA TOWN

まさか!の時も安心。
自分と家族、大切な人を守るために備えましょう!

防災マップ



災害別 早わかりインデックス

風水害(台風災害) . . . P 3

土砂災害 P 5

津波災害 P 7

地震災害 P 9

噴火災害 P 11

屋久島町役場

〒891-4292 鹿児島県熊毛郡 屋久島町小瀬田 849 番地 20
TEL:0997-43-5900 FAX:0997-43-5905

令和4年2月作成



屋久島町公式 LINE



屋久島町 WEB

目次

自助・共助・公助	P 2
風水害(台風災害)	P 3
土砂災害	P 5
津波災害	P 7
地震災害	P 9
噴火災害	P 11
屋久島町の災害想定	P 12
避難所生活	P 13
避難所情報	P 15
持ち出し品リスト	P 17
避難情報と防災気象情報	P 18

防災マップの使い方

この防災マップは、さまざまな災害における人的被害を軽減することを目的として、皆さんが安全な行動をとるために必要な情報を掲載しています。

皆さんが安全に避難するために必要となる情報として、鹿児島県がシミュレーションした津波浸水の範囲や深さ(浸水想定区域)・土砂災害(土砂災害警戒区域)また、避難所などの情報が記載されています。

なお、地図に示した区域以外の場所でも、場合によっては浸水や土砂災害が発生することがありますので、十分注意して行動してください。

- **まず、自宅の位置を確認しましょう。**
- **次に、自宅付近の避難所などを確認しましょう。**
- **災害想定区域を避け、避難経路を決めましょう。**
- **実際に避難経路を歩いてみて、安全を確認しましょう。**

自助・共助・公助

災害による被害を最小限にするには、自助・共助・公助の連携が必要です



自助 「自分や家族で出来る防災活動」 自分 / 家族

家族会議を行う



家族内の役割分担、連絡方法や避難場所の確認など

自宅の安全対策



建物の耐震化、家具の転倒防止

飲料水や食料、生活必需品の備蓄



飲料水や食料・生活必需品は、最低でも3日分備える

地域の防災点検



公園・広場などの位置や避難路などの確認

共助 「隣近所や地域での防災活動」 地域 / 自主防災組織

自主防災組織の強化



訓練への参加、連携、協力体制の確認

消防団活動への参加



消防団への積極的な入団

避難について支援が必要な方への配慮



支援が必要な方の把握、支援体制づくり

避難所運営の協力



物資などの配布、生活環境を良好に保つように協力

公助 「防災関係機関での防災活動」 行政 / 防災関係機関

- 防災関係機関の災害対策などを定めた地域防災計画の作成
- 避難場所・避難所の指定
- 公共施設の耐震化
- 防災施設整備
- 電気、水道などのライフラインの応急対策
- 災害発生時の救助活動
- 自助・共助の取組みへの支援
- 資機材などの整備

風水害(台風災害)

台風の「大きさ」と「強さ」

気象庁は、台風のおおよその勢力を示す目安として、風速をもとに台風の「大きさ」と「強さ」を表現します。

「大きさ」は、強風域(風速15m/秒以上)の半径で、「強さ」は最大風速で区分しています。

また強風域の内側で、風速25m/秒以上の風が吹いていると予想される範囲を「暴風域」と呼びます。

台風に関する情報では、これらを組み合わせて「大型で強い台風」のように呼びます。

台風の大きさ

階 級	風速15m/秒以上の強風域の半径
大型 (大きい)	500km以上～800km未満
超大型 (非常に大きい)	800km以上

台風の強さ

階 級	最 大 風 速
強い	33m/秒以上～44m/秒未満
非常に強い	44m/秒以上～54m/秒未満
猛烈な	54m/秒以上



大型、超大型の台風それぞれの大きさは、日本列島の大きさと比較すると左図のようになります。

雨の強さと降り方(1時間雨量)

10~20mm 未満	20~30mm 未満	30~50mm 未満	50~80mm 未満	80mm 以上
やや強い雨	強い雨	激しい雨	非常に激しい雨	猛烈な雨
地面一面に水たまりができ、話し声が聞き取りにくくなります。 長雨になりそうなら注意が必要です。	傘をさしていても濡れてしまうほどの雨です。 小河川では、はん濫、また、がけ崩れの心配もあります。	がけ崩れが起こりやすくなり危険地帯では避難の準備が必要です。 道路規制が行われることがあります。	滝のように降り、傘は全く役に立たなくなります。 土石流が起こりやすくなり、多くの災害が発生する可能性があります。	息苦しくなるような圧迫感があります。 大雨による大規模な災害が発生するおそれが強く、厳重な警戒が必要です。

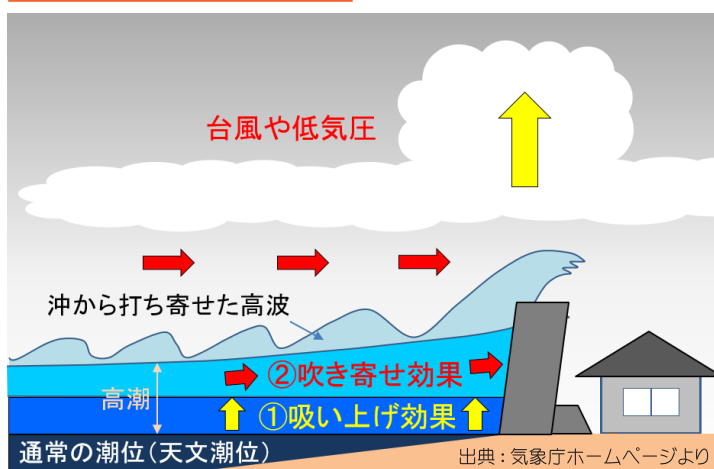
風水害(台風災害)

台風などによる高潮などのリスク

高潮は、主に台風や発達した低気圧の接近に伴い、吸い上げ効果や吹き寄せ効果などにより、海面が異常に上昇する現象で、短時間のうちに急激に潮位が上昇することがあります。

高潮で潮位が高くなって海岸堤防の高さを越えると、一気に海水がなだれ込んできます。また、潮位が海岸堤防の高さを越えていなくても、高潮と重なった高波が海岸堤防を越えて侵入してくることがあります。

また、台風や発達した低気圧の接近時には、潮位の上昇よりも先に暴風が吹き始め高波も発生します。



① 気圧低下による吸い上げ効果

台風や低気圧の中心付近では気圧が低いため、その部分の空気が海面を吸い上げるように作用する結果、海面が上昇します。気圧が 1hPa 低くなると、海面は約 1cm 上昇します。

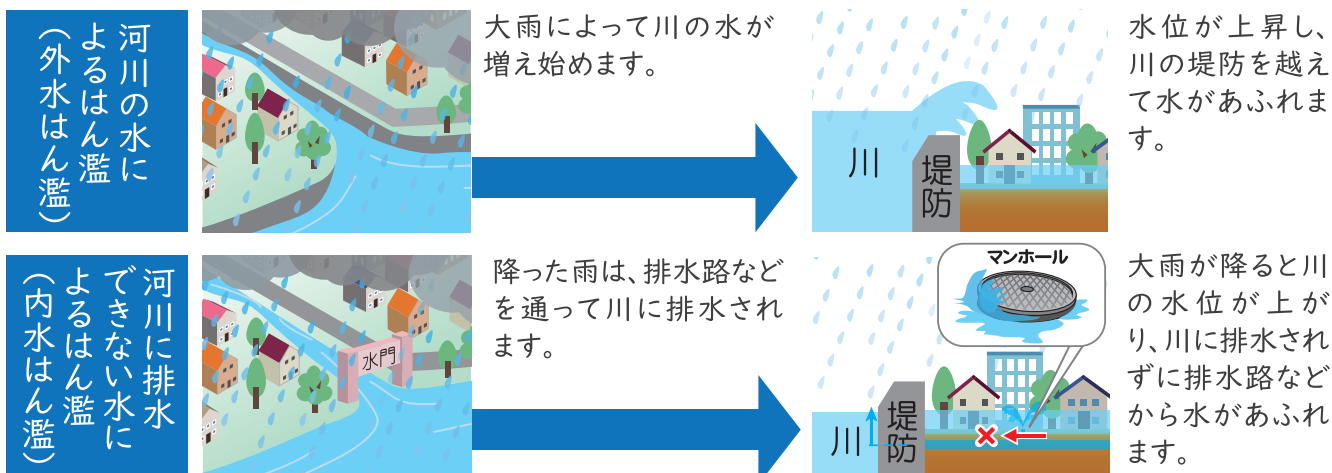
② 風による吹き寄せ効果

台風などによる強風が沖から海岸に向かって吹くと、海水が海岸に吹き寄せられ、海面が上昇します。

洪水はん濫は、どうやって起こるのか

河川の上流で大雨が降ると、増水して下流ではん濫が発生します。

舗装が普及した地域では、雨水が地中にしみ込みにくくなっていることも影響し、集中豪雨などにより河川や排水路の排水処理能力を超えた雨水は低い場所に集まり、短時間のうちに浸水します。たとえ近くに川がなくても「水害」への注意が必要です。



※排水路の排水能力を超える雨が降った場合にも、内水はん濫が発生するおそれがあります。

土砂災害

土砂災害の警戒区域

土砂災害警戒区域(イエローゾーン)

土砂災害が発生した場合、住民の生命・身体に危害が生ずるおそれがあると認められている土地の区域

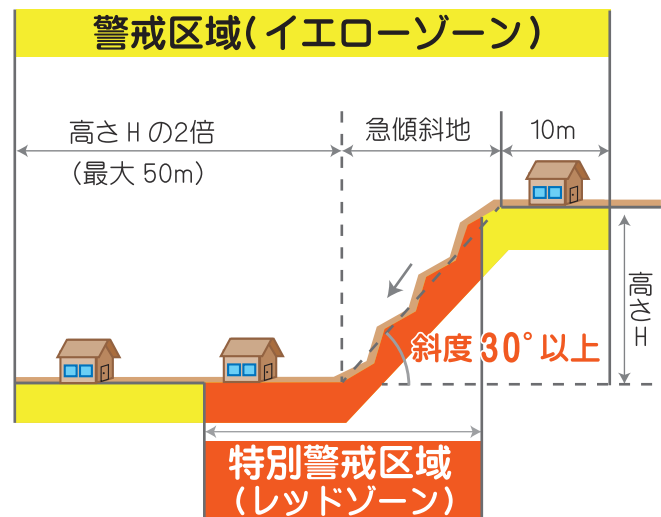
※イエローゾーンは、地形で決定

土砂災害特別警戒区域(レッドゾーン)

土砂災害警戒区域(イエローゾーン)のうち、建築物に損壊が生じ、住民の生命または身体に著しい危害が生ずるおそれがあると認められる土地の区域

※レッドゾーンは、高さ・斜度・土質などから計算で決定

警戒区域・特別警戒区域の指定範囲
(急傾斜地の崩壊の場合)



土砂災害の種類

「土石流危険渓流」

土石流



斜面の土・石・砂が大
雨による水とともに、一
気に谷を流れ下る現象

「急傾斜地崩壊危険箇所」

斜面崩壊
(がけ崩れ)



急ながけ地や山の斜面
が突然崩れ落ちる現象

国内で最も件数の多
い土砂災害

「地すべり危険箇所」

地すべり



粘土などの地層の上
にある斜面部が、ゆっく
り動きだす現象

土砂災害が発生しやすい時

土砂災害は、地中にたくさんの雨が溜まったところに強い雨が降ると発生しやすくなるという特徴があります。

日本では近年、「集中豪雨」や「局地的大雨」が増えていますが、これらは発達した積乱雲(入道雲)によって引き起こされます。

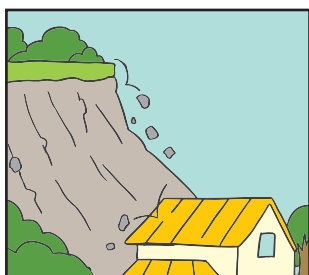
こうした「集中豪雨」や「局地的大雨」が発生した時は土砂災害の危険性も高まるので、特に注意が必要です。

土砂災害

土砂災害の前兆

土砂災害が発生するときには、何らかの前兆現象が現われることがあります。

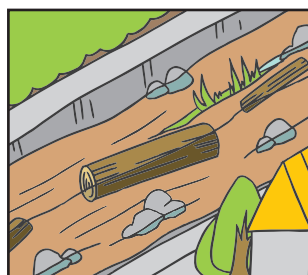
下に挙げたものは主な前兆現象です。こうした前兆現象に気づいたら、周囲の人にも知らせ、いち早く安全な場所に避難することが大切です。



小石がパラパラ落ちてくる。



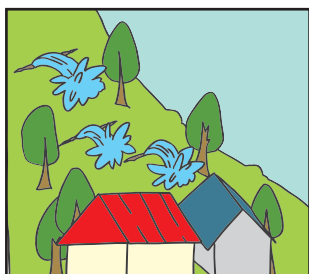
雨が降り続けているのに、川の水位が下がる。



川の水が濁り、流木が混ざり始める。



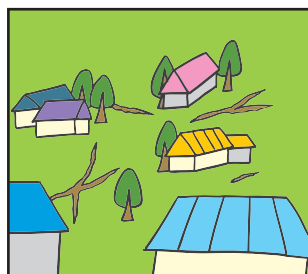
山鳴りがする。



斜面から水が噴き出す。



沢や井戸の水が濁る。



地面にひび割れができる。



異様なニオイ(土臭い、木のニオイなど)がする。

土砂災害対策

1. 住んでいる場所が「土砂災害警戒区域」か確認する。
2. 雨が降り出したら「土砂災害警戒情報」に注意する。
3. 土砂災害警戒区域、土砂災害特別警戒区域にお住まいの方は、土砂災害警戒情報(警戒レベル4)が発表されたら、必ず避難する。
4. 気象庁が発表する大雨・土砂災害危険度分布を参考にしましょう。
5. 土石流は速度が速いため、土砂の流れる方向に対して直角に逃げるようにしましょう。



「警戒区域」の確認



「警戒情報」に注意



レベル4で全員避難



大雨に注意



逃げ方を覚える

津波災害

津波警報・注意報

津波による災害の発生が予想される場合は、地震発生後、約3分で大津波警報、津波警報、津波注意報が発表されます。

その後、「予想される津波の高さ」、「津波の到達予想時刻」などの情報が発表されます。

	予想される津波の高さ		取るべき行動	避難の範囲
	数値での発表 (発表基準)	巨大地震の 場合の発表		
大津波警報	10m超 (10m<高さ)	巨大	沿岸部や川沿いにいる人は、<u>ただちに高台や避難ビルなど安全な場所へ避難</u>してください。 津波は繰り返し襲ってくるので、大津波・津波警報が解除されるまで安全な場所から離れないでください。	日頃から<u>津波ハザードマップ</u>などで、浸水が想定される区域を確認しておきましょう。 また、津波の規模は様々であり、実際には浸水想定を上回る津波が襲ってくることもあるので、<u>最大限の避難を心がけ</u>ましょう。
	10m (5m<高さ≤10m)			
	5m (3m<高さ≤5m)			
津波警報	3m (1m<高さ≤3m)	高い	 ここなら安心と思わず、より高い場所を目指して避難しましょう。	
津波注意報	1m (0.2m<高さ≤1m)	(表記ない)	海の中にいる人は、<u>ただちに海から上がって、海岸から離れ</u>てください。 津波注意報が解除されるまで海に入ったり海岸に近付いたりしないでください	

※地震発生後、予測される津波の高さが20cm未満で被害の心配がない場合、または津波注意報の解除後も海面変動が継続する場合には、津波予想(若干の海面変動)が発表されます。

マグニチュード8を超えるような巨大地震の場合「巨大」という言葉を使った大津波警報で、非常事態であることを伝えます。

到達予測時刻・予想高さ		
大津波警報 (予想高さ)		
〇〇県	津波到達中と推測	巨大
××県	10時30分	巨大
△△県	11時00分	巨大
津波警報		
××県	10時30分	高い
△△県	11時00分	高い

マグニチュード8を超えるような巨大地震の場合は、正しい地震の規模をすぐに把握できないため、その海域における最大級の津波を想定して、大津波警報や津波警報を発表します。これにより、津波を小さく予想することを防げます。

このとき、最初の津波警報では、予想される津波の高さを「巨大」、「高い」という言葉で発表して非常事態であることを伝えます。

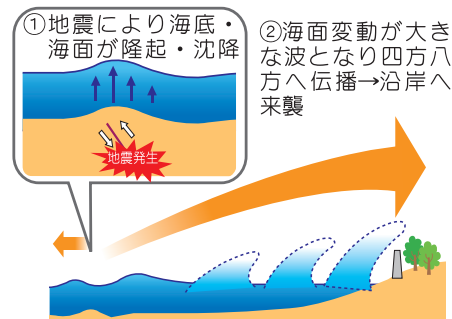
津波災害

津波について

1. 地震による津波発生の仕組み

海底で大きな地震が発生すると、断層運動により海底が隆起もしくは沈降します。

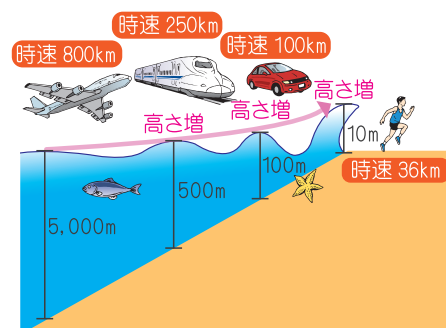
これに伴って海面が変動し、大きな波となって四方八方の広い範囲に伝わるものが津波です。



2. 津波の速さ

津波は、海が深いほど早く伝わる性質があり、沖合ではジェット機に匹敵する速さで伝わります。

津波は沿岸に近づき水深が浅くなるにつれ、急激に高くなります。津波の速度は非常に速く、見てから逃げるのでは間に合いません。

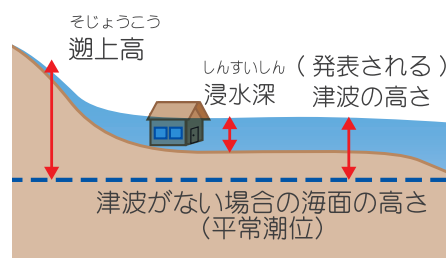


3. 津波の高さについて

地震が起きて津波のおそれがある場合は、予想される津波の高さにより、「津波注意報」、「津波警報」、「大津波警報」が津波予報区ごとに発表されます。

また、津波の到達が満潮時に重なった場合は発表された津波の高さより高くなることもあり、沿岸の地形の影響などにより局所的に高くなることもあります。

※川沿いなどは津波の遡上が発生することもあります。



津波から避難する4つのポイント

1. 高い場所へ速やかに避難する

・より高い場所へ、より海から遠い場所へ速やかに避難しましょう。

2. 海岸や河川には、近づかない

・地震の発生や、津波の警報・注意報が発表された場合、海岸や河川は危険です。
・速やかに海岸から離れ、高い場所へ避難しましょう。

3. 正しい情報を入手する

・防災行政無線やテレビ、ラジオなどから正しい情報を入手しましょう。

4. 避難指示に従う

・避難指示が発令されたらただちに指示に従い、すみやかに避難しましょう。

地震災害

地震発生時の時間経過と行動

地震の揺れを感じたら、どんな場所でも「あわてず、まず身を守る」ことが大切です。

地震
発生

揺れがおさまって

2分
〜
5分

5分
〜
10分

10分
〜
半日

半日
〜
3日

● まず、身の安全

- ・家族への声かけ。
- ・机の下に入る。
- ・クッション、雑誌などで頭を保護する。
- ・家具から離れる。
- ・ガラス面から離れる。



● 大揺れがおさまった。落ち着いて行動

- ・台所やストーブなど火の始末をする。
- ・避難の時は、ブレーカーを切り、ガスの元栓を閉める。
- ・危険なので、あわてて外に飛び出さない。



● 家族の身の安全を確認、確保

- ・津波警報発表時は、すぐに危険区域から率先避難する。
- ・家族の安全の確認、確保をする。
- ・災害情報、避難情報を入手する。
- ・避難のための出口の確保をする。
- ・ガラス片や転倒家具に注意する。



● 隣近所の安否確認、助け合い（可能な場合）

- ・余震による家屋の倒壊や津波の危険があるため、津波警報が解除または自宅の安全が確認できるまでは、屋外の安全な場所へ避難する。
- ・倒壊家屋や転倒家具の下敷きになっている人の救出。
- ・火災発生時の消火活動をする。
- ・けが人の救護をする。



● 2次災害に気をつける

- ・地震発生後数日間は、崩れそうな建物や河川・海・崖などに近づかないようにする。
- ・水道、ガス、電気、電話などライフラインをはじめ、食糧の供給が途絶える可能性があるため、最低でも3日分、できれば1週間分は、家族でしのげるように、生活必需品や非常用品を備えておく。

地震災害

地震の揺れと被害想定

震度0	人は揺れを感じない。
震度1	屋内にいる人の一部がわずかな揺れを感じる。
震度2	屋内では多くの人が揺れを感じ、眠っている人の一部は目を覚ます。吊り下げ物がわずかに揺れる。
震度3	屋内のほとんどの人が揺れを感じ、恐怖感を覚える人もいる。棚の食器類が音をたてることがある。
震度4	屋内ではかなりの恐怖感があり、眠っている人のほとんどが目覚めます。座りの悪い置物が倒れる。
震度5弱	棚の食器や本が落ち、家具が移動することがある。窓ガラスが割れ、弱い壁に亀裂が生じることがある。
震度5強	棚の多くのものが落ちる。タンスが倒れることがある。補強されていないブロック塀、据付の悪い自動販売機、墓石の多くが転倒
震度6弱	立っていることが難しい。多くの家具が移動、転倒する。
震度6強	立っていることができず、這ってしか動けない。家具のほとんどが移動、転倒する。
震度7	人は自分の意志で動けない。ほとんどの家具が大きく移動し、飛ぶものもある。

地震に備える

● 家具類の転倒・落下・移動防止対策をしておきましょう。



- ・避難に支障のないように家具を配置しておきましょう。
- ・家具やテレビ、パソコンなどを固定し、転倒・落下・移動防止措置をしておきましょう。

● けがの防止対策をしておきましょう。



- ・食器棚や窓ガラスなどには、飛散防止措置をしておきましょう。
- ・停電に備えて懐中電灯をすぐに使える場所に置いておきましょう。
- ・散乱物でケガをしないようにスリッパやスニーカーなどをリビングや寝室などの身近な場所に準備しておきましょう。

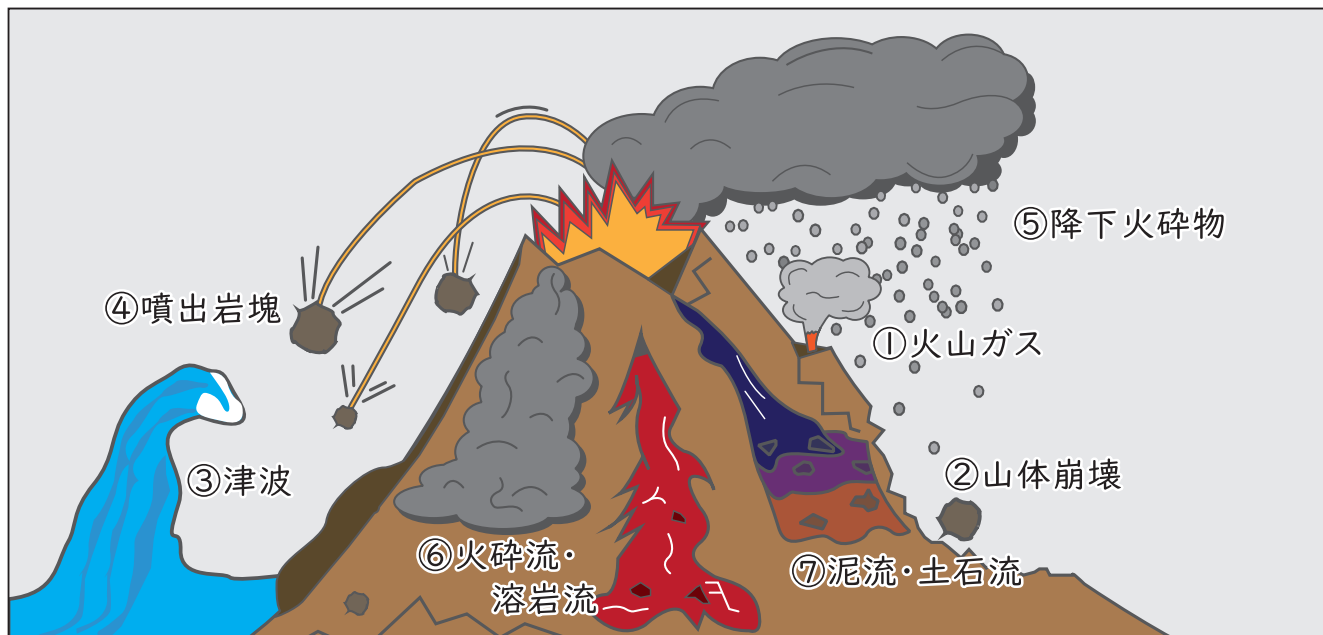
● 家屋や塀の強度を確認しておきましょう。



- ・家屋の耐震診断を受け、必要な補強をしておきましょう。
- ・ブロックやコンクリートなどの塀は、倒れないよう補強しておきましょう。

噴火災害

噴火で起きる現象



現象名	①火山ガス	②山体崩壊	③津波
噴火で起きる現象の説明	火山活動の活発化に伴い、有毒な火山ガスが噴出する可能性があります。 火山ガスの滞留、拡散は、地形や気象条件に依存しているが、濃度の高い火山ガスを吸うと死に至ることもあります。	古岳、新岳などの口永良部島東部の火山体は、急峻な地形をしており、火山活動の活発化に伴って山体が崩壊する可能性があります。	新岳火口から西側に向かって何らかの理由で土砂が急速に流れ下り、海に流入した場合、津波が発生する危険があります。
④噴出岩塊	⑤降下火砕物	⑥火砕流・溶岩流	⑦泥流・土石流
爆発的な噴火が発生した場合、火口から約3kmの範囲で、噴出岩塊が落下する危険があります。 噴出岩塊が人や家畜などにあたると死傷するほか、建物や車などにも大きな被害を及ぼします。	噴出岩塊よりも粒径が小さく、風向によって堆積範囲が大きく変化し、大規模な噴火では東側で厚く堆積することが予想されます。 降下火砕物が厚く堆積すると、森林や農作物などに被害が生じる可能性があります。	火砕流・溶岩流が北西側に流れ出した場合、向江浜及び前田に到達する可能性があります。 溶岩流は、流下速度が比較的遅いため、流下が始まってから逃げることもできますが、火砕流は時速100kmを越す速度で流下するため、発生してから避難することは困難です。	噴火に伴って、古岳・新岳の山腹には降下火山灰や火砕流などが堆積しています。このような堆積物は、降雨によって泥流や土石流として流れ下ることがあり、泥流・土石流が発生した場合、向江浜、湯向に到達する可能性があります。

口永良部島の火山活動

口永良部島は、古い火山体である西部の番屋ヶ峰と現在まで活動を続けている島の中央部から東部を構成する新岳・古岳・野池山などの火山体からなります。

最近200年は爆発的な活動が多く、1931年には、西山麓にある向江浜へ土石流が流れ込み、多くの家屋に被害が生じています。また、新岳西側の溶岩流(新岳から流出)は新しい地形を残しており、今後溶岩を流出する可能性もあります。

平成27(2015)年5月29日には爆発が発生し、火砕流が向江浜の海上まで達しました。このため噴火警戒レベル5の噴火警報が発表され、全島民が約7ヶ月の間、島外避難することとなりました。

屋久島町の災害想定

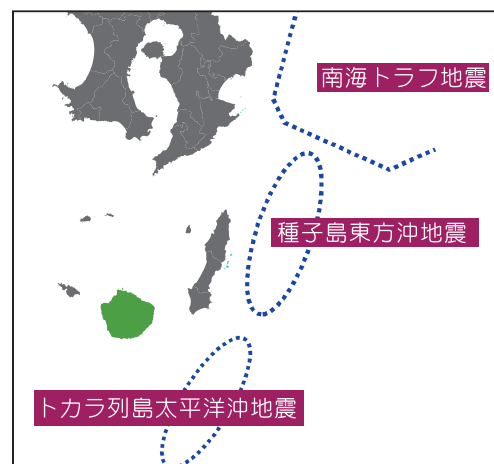
地震動・津波ケース

「鹿児島県地震等災害被害予測調査」における、屋久島町の各想定地震の地震動・津波ケースは下記のとおりです。

● 地震動の想定

地震動の想定結果で最大震度が最も大きかったのは、最大震度6弱の「トカラ列島太平洋沖地震」と「種子島東方沖地震」、次いで、震度4の「南海トラフ地震」という結果になっています。

これらの地震により、屋久島町では揺れや急傾斜地の崩壊などによる被害が生じる可能性があります。



想定地震などの位置	屋久島町 最大震度	モーメントマグニチュード(M _w)
トカラ列島太平洋沖	6 弱	8.2
種子島東方沖	6 弱	8.2
南海トラフ	4	9.0

● 津波の想定

屋久島町においては、「トカラ列島太平洋沖」、「種子島東方沖」、「南海トラフ」のケースが被害を及ぼす可能性が高いと考えられており、いずれのケースにおいても、地震発生から短時間で津波が到達する結果になっています。

	津波の高さ +1m 到達	最大津波到達	最大津波高
トカラ列島太平洋沖	16 分後	43 分後	5.45 T. P. m
種子島東方沖	25 分後	50 分後	3.87 T. P. m
南海トラフ	40 分後	49 分後	11.89 T. P. m

※町防災マップの「津波浸水想定区域」は「南海トラフ」の想定となります。

※T. P. 日本の標高（海拔高度）の基準点

災害時の緊急連絡先

屋久島町役場	0997-43-5900
屋久島警察署	0997-46-2110
熊毛地区消防組合屋久島北分遣所	0997-42-0119
熊毛地区消防組合屋久島南分遣所	0997-47-2125
屋久島保健所	0997-46-2024

避難所生活

避難所での気配り・心配り

● 周囲への心配り

自分がされたくないことをしないよう、周りの方への心配りをしましょう。



● 要配慮者への気配り

お年寄りや体の不自由な方など、要配慮者への気配りを心がけましょう。



● 助け合い

困っている人がいたら積極的に助けましょう。



● 衛生面にも注意

みんなが使う場所は定期的に清掃をして清潔に保ちましょう。



● ルールや役割を守る

避難所内で決められたルールや役割を守りましょう。



● 惑わされない

うわさやデマに惑わされないようにしましょう。



● 感染症の予防

手洗い・咳エチケットなどの基本的な感染症対策を徹底しましょう。



● ペットの飼育管理

地域の避難所がペットとの同行避難が可能かどうかをあらかじめ確認し、避難所のルールを守りましょう。



感染症について

● ウイルス感染者の避難について

ウイルス感染者で自宅待機中に、避難の必要がある場合は、まず保健所や役場に連絡し、対応を仰ぎます。

※ウイルス感染者が自宅にいる家族についても同じです。

● 避難所で体調を崩したらすぐに避難所の責任者に報告

ちょっとしたでも体調が、おかしいと思ったらすぐに避難所の責任者に報告し指示を仰ぎましょう。

もしウイルスが蔓延すれば、他の避難者に迷惑を掛けてしまいます。身体の弱い方に移してしまうと、その人は症状が重くなってしまう可能性もあります。

● 避難所へ避難する場合は

町も感染対策に必要な物資の配備に努めますが、備蓄品には限りがありますので、ご自身やご家族の健康衛生管理に必要と思われるものは、可能な限り持参してください。

【持参する物の例】

・マスク・常備薬・体温計・使い捨ての手袋・消毒液



避難所生活

要配慮者とは

平成25年6月に災害対策基本法が改正され、これまでの「災害時要援護者」を「要配慮者」とし、要配慮者のうち、自ら避難することが困難で特に支援を要する方を「避難行動要支援者」と言います。

※要配慮者とは、高齢者・障がい者・乳幼児などの防災施策において特に配慮を要する方を指しています。

要配慮者の方への支援

災害に対して、高齢者や障がいのある方などは、

- ・ 身に迫った危険を察知しにくい
- ・ 助けを求めたり、助けてほしい内容を伝えにくい
- ・ すぐに身を守る行動をとりにくい

など、多くのハンデを抱えています。こうした要配慮者の方々を災害から守るためには、地域ぐるみの温かい支援が必要です。

● 交流を密にする

日頃から近隣に住む要配慮者とあいさつを交わすなど交流を深めておく。また、プライバシーや本人の意思などに配慮しながら、支援のニーズを聞いておく。

● 要配慮者の視点で点検する

避難路は車いすで通れるか、障害物がないかなど、要配慮者を安全に避難誘導できるよう、確認する。

● 防災訓練への参加を促す

要配慮者の方に防災訓練に参加してもらう。その際に、安否確認や避難誘導など、具体的な支援体制を決めておく。

● 要配慮者を把握する

地域のコミュニティなどを通して要配慮者の把握、共有などを進めておく。

要配慮者の方へ

● 日頃の準備

防災訓練などに積極的に参加し、災害時に手助けが必要な状況を理解してもらい、声をかけあえる関係を作るよう努めましょう。

● 避難所へ避難したとき

避難したときは、運営スタッフに避難生活するうえで支障がありそうなことを、わかる範囲で伝えておきましょう。

避難所情報

指定避難所一覧表

地区名	施設名	所在地	電話番号	収容人数 (人)
□永良部島	□永良部島へき地保健福祉館	□永良部島656-1	49-2255	94
	役場□永良部島出張所	□永良部島372	49-2100	120
	□永良部島湯向公民館	□永良部島1739-8	—	53
	金岳小学校	□永良部島656	49-2141	490
	番屋ヶ峰避難所	□永良部島207-4	—	168
永 田	永田小学校	永田2947	45-2271	1,145
吉 田	吉田コミュニティセンターふれあい館	吉田292-2	44-2633	250
	吉田生活館	吉田74	44-2834	122
一 湊	一湊公民館	一湊348-1	44-2034	203
	一湊小学校	一湊488-1	44-2130	1,054
	一湊白川地区避難所	一湊2418-78	44-2124	49
志戸子	志戸子公民館	志戸子72-1	42-0024	169
宮之浦	宮之浦公民館	宮之浦177-4	42-0071	250
	宮之浦児童館	宮之浦1260-22	—	120
	宮浦小学校	宮之浦2437-1	42-0017	1,645
	宮之浦体育館	宮之浦2482-5	42-2089	671
楠 川	楠川公民館	楠川191	42-1357	169
梶 川	梶川生活館	楠川1480-1	43-5210	88
小瀬田	小瀬田公民館	小瀬田13-11	43-5247	200
	小瀬田小学校	小瀬田1436-88	43-5050	953
長 峰	長峰生活館	小瀬田776-7	43-5165	98
栗 生	栗生小学校	栗生2270-1	48-2010	884
	栗生生活館	栗生1735	48-2807	150
中 間	中間公民館	中間703	—	86
湯 泊	湯泊生活館	湯泊8	48-2806	100
平 内	平内生活館	平内460-20	47-2953	140
	八幡小学校	平内444-1	47-2202	1,091

避難所情報

地区名	施設名	所在地	電話番号	収容人数 (人)
小 島	小島観光農林漁業経営管理施設	小島17-11	47-1180	97
	岳南中学校	小島63-23	47-2200	1,569
尾之間	尾之間自然休養村管理センター	尾之間284	47-2134	215
原	原公民館	原367-1	47-3836	100
	神山小学校	原3-1	47-2201	1,118
麦 生	麦生観光農林漁業経営管理施設	麦生719-1	47-2903	127
高 平	高平公民館	麦生318-134	—	81
平 野	平野公民館	安房2617-205	46-3850	101
春 牧	春牧へき地保健福祉館	安房2384-5	46-2938	154
	安房中学校	安房2371-67	46-3262	1,437
安 房	総合センター	安房187-1	—	801
	安房体育館	安房304-1	—	1,078
	安房小学校	安房1264-7	46-3162	1,746
	安房地区公民館	安房152-2	46-2513	367
松 峯	松峯生活館	安房1430-20	46-3854	125
船 行	船行公民館	船行9-2	—	87
永久保	永久保生活館	船行1045-103	46-3813	66

※避難先は小中学校・公民館などだけではありません。安全な親戚・知人宅に避難すること考えてみましょう。

福祉避難所一覧表

地区名	施設名	所在地	電話番号	FAX番号
宮之浦	屋久島町福祉センター縄文の苑	宮之浦2467-19	42-2711	42-2361
尾之間	屋久島町総合福祉センターこまどり館	尾之間459-1	47-3232	47-3233

● 福祉避難所とは ●

福祉避難所は、災害時に必要に応じて開設する二次避難所となります。福祉避難所は、平常時には入所・通所施設として運営されており、災害時には、各施設の安全確保や職員の配置などの確認を行った上で、施設の空きスペースなどを利用して開設する必要があるため、災害発生から概ね3日程度経過後の開設を想定しています。災害発生当初から開設することは原則としてありません。災害時に、自宅の焼失、倒壊などにより生活の場を失った場合は、まずは、最寄りの小中学校などの一般の指定避難所に避難してください。

● 福祉避難所の対象者 ●

一般の避難所での生活が困難な要配慮者の方及びその家族など（要配慮者を介助するものとして原則1人まで）

持ち出し品リスト

いざという時のために下記リストを参考に準備しましょう。

また、備蓄品の飲食物は保存期間に注意しましょう。

非常時の持出品（すぐに持ち出せるように、リュックなどにまとめておきましょう。）

- 貴重品 ☐ 現金 ☐ キャッシュカード ☐ 預金通帳 ☐ 印鑑
☐ 免許証 ☐ 健康保険証 ☐ マイナンバーカード
- 非常食 ☐ 飲料水(ペットボトル) ☐ 栄養補助食品 ☐ 菓子類
- 応急 医薬品 ☐ お薬手帳 ☐ 持病薬 ☐ 常備薬(風邪薬・傷薬など)
☐ ばんそうこう ☐ 消毒液 ☐ マスク ☐ 除菌シート ☐ 体温計
- 生活用品 ☐ 衣類 ☐ 防寒着 ☐ 雨具 ☐ タオル ☐ ティッシュ(ウェット)
☐ 運動靴 ☐ 軍手 ☐ 帽子又は防災ずきん ☐ ライター
☐ ビニール袋 ☐ 生理用品 ☐ ラップフィルム
- その他 ☐ 携帯ラジオ ☐ 携帯電話 ☐ 充電器 ☐ 懐中電灯 ☐ ホイッスル
☐ 電池 ☐ 筆記用具 ☐ メガネ ☐ 思い出品



備蓄品（1週間分の備蓄を心がけましょう。）

- 食料・飲料水 ☐ 飲料水(1人1日3リットル) ☐ 缶詰
☐ 栄養補助食品 ☐ インスタント・レトルト食品
- 燃料など ☐ 卓上コンロ ☐ ガスボンベ ☐ 固形燃料
- 生活用品 ☐ 毛布 ☐ 寝袋 ☐ 洗面用具 ☐ 鍋 ☐ やかん ☐ バケツ
☐ トイレットペーパー ☐ 携帯トイレ ☐ 使い捨てカイロ
- その他 ☐ ビニールシート ☐ 新聞紙 ☐ ろうそく ☐ ガムテープ
☐ ロープ ☐ ポリタンク



赤ちゃんや介護を必要とする方などがある場合は、次のようなものがが必要です。

赤ちゃんがいる場合

- ☐ ミルク、ほ乳びん ☐ 乳幼児用の薬
- ☐ 離乳食、食器 ☐ 母子健康手帳
- ☐ お尻拭き ☐ 消毒液
- ☐ 帽子・防寒着 ☐ 紙おむつ
- ☐ バスタオル ☐ おんぶひも
- ☐ ガーゼ・ハンカチ ☐ 衣類(着替え)

介護を必要とする方がいる場合

- ☐ おかゆなどの食料品(介護食)
- ☐ 障害者手帳、介護保険証など
- ☐ 紙おむつ ☐ 介護用品
- ☐ 帽子・防寒着 ☐ お尻拭き
- ☐ 衣類(着替え) ☐ 常備薬

※介護の状態などに応じて備えてください

その他（上記に記載がない項目で、ご自身に必要な物は記入して準備しておきましょう）

- | | |
|--------------------------|--------------------------|
| ☐ | ☐ |
| ☐ | ☐ |
| ☐ | ☐ |
| ☐ | ☐ |
| ☐ | ☐ |

避難情報と防災気象情報

警戒レベル一覧

災害が発生又は発生するおそれがある場合、次の避難情報を発令し避難のタイミングをお伝えします。

災害時に備えて、各段階でとるべき行動をチェックしましょう。

＜避難情報等＞			＜防災気象情報＞
警戒レベル	避難行動等	避難情報等	
警戒レベル5	浸水の恐れがなく、崖から離れた自宅の部屋などで安全を確保しましょう。	緊急安全確保	大雨特別警報 氾濫発生情報
～警戒レベル4までに必ず避難～			
警戒レベル4	危険な場所から <u>全員避難</u> しましょう。	避難指示	土砂災害警戒情報 氾濫危険情報
警戒レベル3	避難に時間のかかる高齢者や障害のある方は、危険な場所から避難しましょう。※	高齢者等避難	大雨・洪水警報 氾濫警戒情報
警戒レベル2	避難に備え、ハザードマップなどにより自らの <u>避難行動を確認</u> しましょう。	—	大雨・洪水・高潮 注意報
警戒レベル1	防災気象情報等の最新情報に注意する等、災害への心構えを高める。	—	早期注意情報

(注) 各種の情報は、警戒レベル1～5の順番で発表されるとは限りません。状況が急変することもあります。

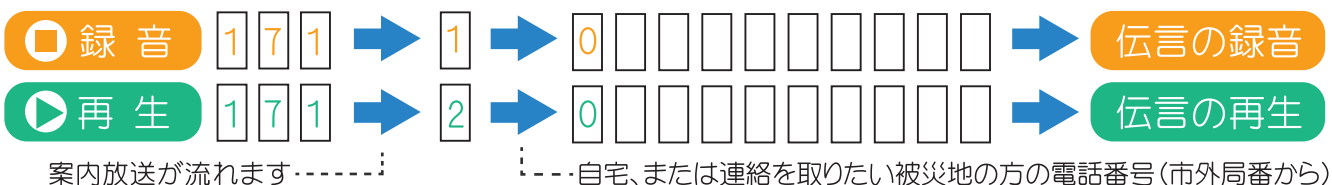
※ 警戒レベル3は、高齢者等以外の人にも必要に応じ普段の行動を見合わせ始めたり危険を感じたりしたら自主的に避難するタイミングです。

災害用伝言ダイヤル ※災害時にご利用になれます。

災害用伝言ダイヤル

171

大規模な災害が発生し、安否確認などの電話によって電話回線が混雑し、電話が繋がりにくい状況でも、伝言の録音・再生により、被災地内の家族や親戚・知人などと連絡を可能にする「声の伝言板」です。



詳しい内容はNTTのホームページで確認してください

[171] または [NTT 伝言板]



わが家の防災メモ

わが家の
避難先

家族の
集合場所

家族の名前	生年月日	血液型	メモ(病名・病歴、携帯番号、勤務先など)
	T・S・H・R 年 月 日	型 Rh(+ / -)	
	T・S・H・R 年 月 日	型 Rh(+ / -)	
	T・S・H・R 年 月 日	型 Rh(+ / -)	
	T・S・H・R 年 月 日	型 Rh(+ / -)	
	T・S・H・R 年 月 日	型 Rh(+ / -)	
	T・S・H・R 年 月 日	型 Rh(+ / -)	

困ったときの連絡先

親戚や知人・かかりつけ病院などの連絡先を書いておきましょう。

名 前	電 話 番 号	住 所
		〒
		〒

その他メモ

本誌に記載されてない項目でもご自身にとって重要なことを書いておきましょう。
